

第8回 六角川水系流域治水協議会 会議資料

議事2 実務者会議の取組状況について

令和6年5月27日

実務者会議の設置及び課題の抽出について

NO	機関名	実務者会議にて議論したい課題等	実務者会議に参加を希望する機関
1	武雄河川事務所 管理課	■課題: 排水機場操作員の安全・作業環境の改善 ■内容: 排水機場の操作員の安全操作に関する取組を検討し、その行動計画を幹事会に提案する。	■武雄河川事務所 ■佐賀県 ■各市町 ■北部九州土地改良調査管理事務所
2	多久市 建設課	■課題: 牛津川遊水地事業に対する地元対策について ■内容: 当事業に対し、東多久区長会で設立されている東多久町牛津川遊水地対策協議会より要望書が提出されていることから、地元対策が必要である。	■武雄河川事務所 ■佐賀土木事務所 ■多久市
3	多久市 建設課	■課題: 県河川永瀬川の内水対策について ■内容: 永瀬川の内水対策については、県の排水ポンプ及び国のポンプ車により大雨時に対応していただいている状況であるが、頻繁に内水はん濫を起こしていることから更なる対策が必要である。	■武雄河川事務所 ■佐賀土木事務所 ■多久市
4	多久市 建設課	■課題: 県河川庄川の内水対策について ■内容: 庄川の内水対策については、県の排水ポンプ及び国のポンプ車により大雨時に対応していただいている状況であるが、頻繁に内水はん濫を起こしていることから更なる対策が必要である。	■武雄河川事務所 ■佐賀土木事務所 ■多久市

実務者会議の設置及び課題の抽出について

NO	機関名	実務者会議にて議論したい課題等	実務者会議に参加を希望する機関
5	武雄市 治水対策課	■課題: 浸水リスクが特に高いエリア(朝日、北方、橘)での対策事業の目標と効果について ■内容: 各地区における対策事業の目標と効果を共有し対策を進める。 ・北方地区: (対策例) 内水調整池、排水機場、ため池活用(焼米)、その他 ・朝日地区: (対策例) 内水調整池、ため池活用、その他 ・橘地区: (対策例) 内水調整池、遊水地、その他	■武雄河川事務所 ■佐賀県河川砂防課 ■杵藤土木事務所 ■杵藤農林事務所
6	小城市 建設課	■課題: 牛津川右岸地域(多久・小城・江北)の内水対策について ■内容: 近年の大雨で牛津川右岸地域は浸水被害にたびたび見舞われており、地元でも早めの排水機場の始動、事前排水などの対策を取るために、市町をまたいで連携を取れるようにしたい。	■武雄河川事務所 ■佐賀国道事務所 ■土木事務所 ■農林事務所 ■多久市 ■江北町 ■小城市 ■羽佐間土地改良区
7	大町町 農林建設課 江北町 基盤整備課	■課題: 高良川における治水対策について ■内容: 近年の気候変動による大雨により高良川からの越水の影響で大町町だけでなく江北町にまで被害が及んでいることから、河川管理者である佐賀県、大町町、江北町で課題の共有、解決に向けた協議の場を持ちたい。	■杵藤土木事務所 ■江北町 ■大町町
8	白石町 維持管理係	■課題: 流域治水推進計画に基づく対策の早期実現 ■内容: 対策実現に向けて、既存施設の機能保全に努めながら、各関係機関との協議、連携を強化し、早期に実現できる対策から順次実施していくことを重要と考えます。	■武雄河川事務所 ■北部九州土地改良調査管理事務所 ■佐賀県農林水産部 ■佐賀県県土整備部

■会議名称 排水機場の洪水時の安全な操作に関する実務者会議

■目的 排水機場の操作員の安全操作に関する取り組み内容を検討し、その行動計画を幹事会に提案する

■検討項目 六角川水系で整備されたすべての排水機場を対象として、安全な退避、安全な操作、施設・環境改善を検討

＜令和5年度の取り組み内容＞ 持続可能な排水機場の操作体制の確保に向けたワークショップの実施、安全訓練の実施 等

＜令和6年度の取り組み内容＞ 持続可能な排水機場の操作体制の確保に向けたワークショップの実施、行動計画(案)の検討 等

安全な退避

＜持続可能な排水機場の操作体制の確保に向けたワークショップの開催＞

【実施内容】操作タイムラインの作成

【対象排水機場】

前満江排水機場(小城市所管)

蔵堂入江排水機場(佐賀県所管)

【実施時期】

第1回:令和6年2月

第2回:令和6年3月

第3回:令和6年6月下旬(予定)

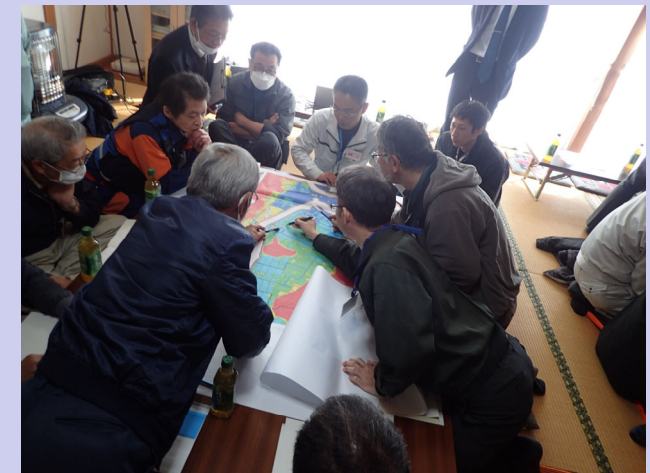
【参加者】

操作員、自治会役員、消防団

水利組合役員 等



前満江排水機場



蔵堂入江排水機場

安全な操作



県内排水機場の操作員を対象に安全訓練を実施

施設の改善



遠隔操作システムの導入(大町町)

操作環境の改善



簡易ベットの設置(武雄市)



操作員に
タブレットの配布
(武雄市)

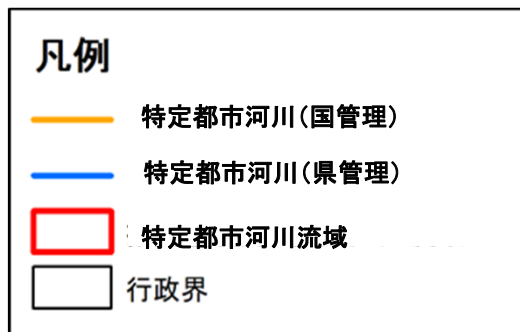
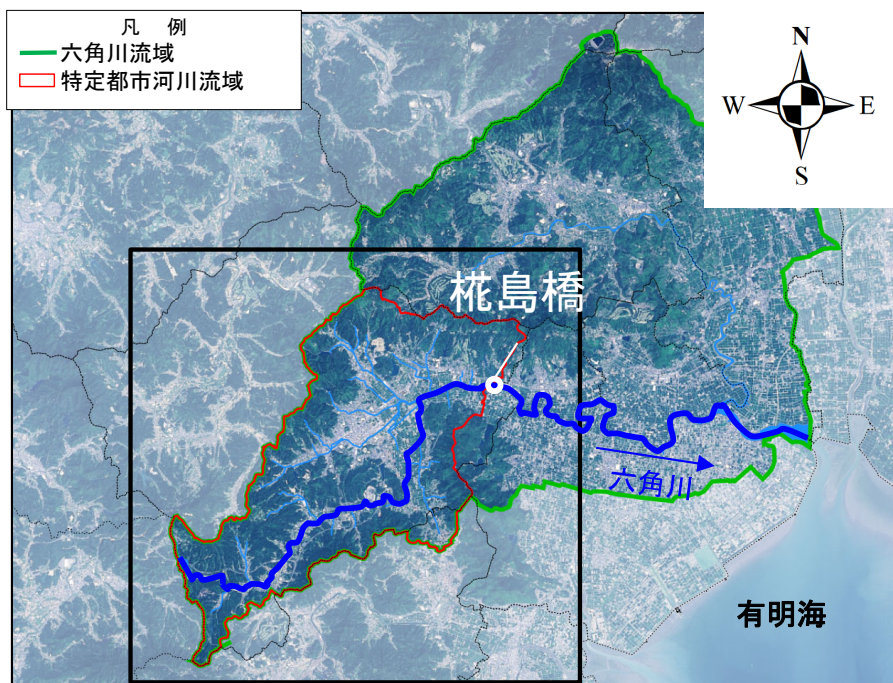


内水監視カメラ映像の
配信(白石町)

＜その他＞

- ・非常食、ヘルメット、ライフジャケットの配布
- ・操作員待機室の清掃美化
- ・操作室の椅子の交換

- ・ 柵島橋から上流域、六角川など計33河川を特定都市河川に指定(R5.3)



①特定都市河川の指定（R5.3.28）

②流域水害対策協議会の設置（R5.6.13設置）

流域水害対策計画の検討



国・県・市が実施する対策メニューの検討

流域水害対策計画骨子案を令和6年2月に公表 ※骨子案のポイントはP9～P11

【計画期間】

⇒河川整備計画、下水道計画、まちづくり関係の計画期間を勘案し、概ね20年を基本として検討

【目標となる降雨】

⇒特定都市河川流域で最高水位を記録した令和3年8月洪水を計画対象降雨とする

【浸水被害対策の基本方針】

⇒次項参照

③流域水害対策計画 策定

洪水・雨水出水により想定される

浸水被害に対し、概ね20～30年の間に実施する取組を定める

関係者の協働により、計画に基づき「流域治水」を本格的に実践

浸水被害対策の基本方針(目標・重点整備地区の設定)

- 目標は、令和3年8月降雨に対して、河川整備・雨水貯留浸透施設整備・既存施設を活用した流域対策・住まい方の工夫など、多層的な対策により、床上浸水の解消とする
- 特定都市河川流域の中でも、水害常襲地区である橘地区・朝日地区・北方地区を重点整備地区として、流域に降った雨を“貯留”する対策及び住まい方の工夫による浸水被害軽減に向けた取組を重点的に進める
- 計画対象降雨を超える降雨に対しても、人命を守ることを最優先とし、経済被害の軽減に取り組む

①氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策 (ハザードへの対策)

- ◆河川整備
- ◆下水道整備
- ◆雨水貯留浸透施設等の整備
- ◆既存施設の治水活用
- ◆森林整備・保全 等



河川整備の推進

②被害対象を減少させるための対策 (暴露への対応)

- ◆雨水浸透阻害行為の許可
- ◆貯留機能保全区域の指定
- ◆浸水被害防止区域の指定
- ◆災害リスクの低い土地への移転、居住誘導
- ◆宅地の嵩上げ 等



貯留機能を有する土地のイメージ



浸水被害被害防止区域における
居住誘導・住まいづくりの工夫のイメージ

③被害の軽減、早期復旧、復興 のための対策 (脆弱性への対応)

- ◆“逃げ遅れゼロ” へ向けた
情報発信システム等の整備
- ◆防災教育や防災知識の普及に
関する取り組み
- ◆支川の洪水浸水想定区域図
作成等水災害リスク情報の
充実 等



水災害リスク情報の充実



防災知識の普及活動

浸水被害対策の基本方針(まちづくりの考え方・治水対策の方向性)

重点整備地区の浸水被害対策については、武雄市のまちづくりと連携し、土地利用への影響や地域の意見などを踏まえながら、居住対策や貯留施設の規模などについて検討を進める

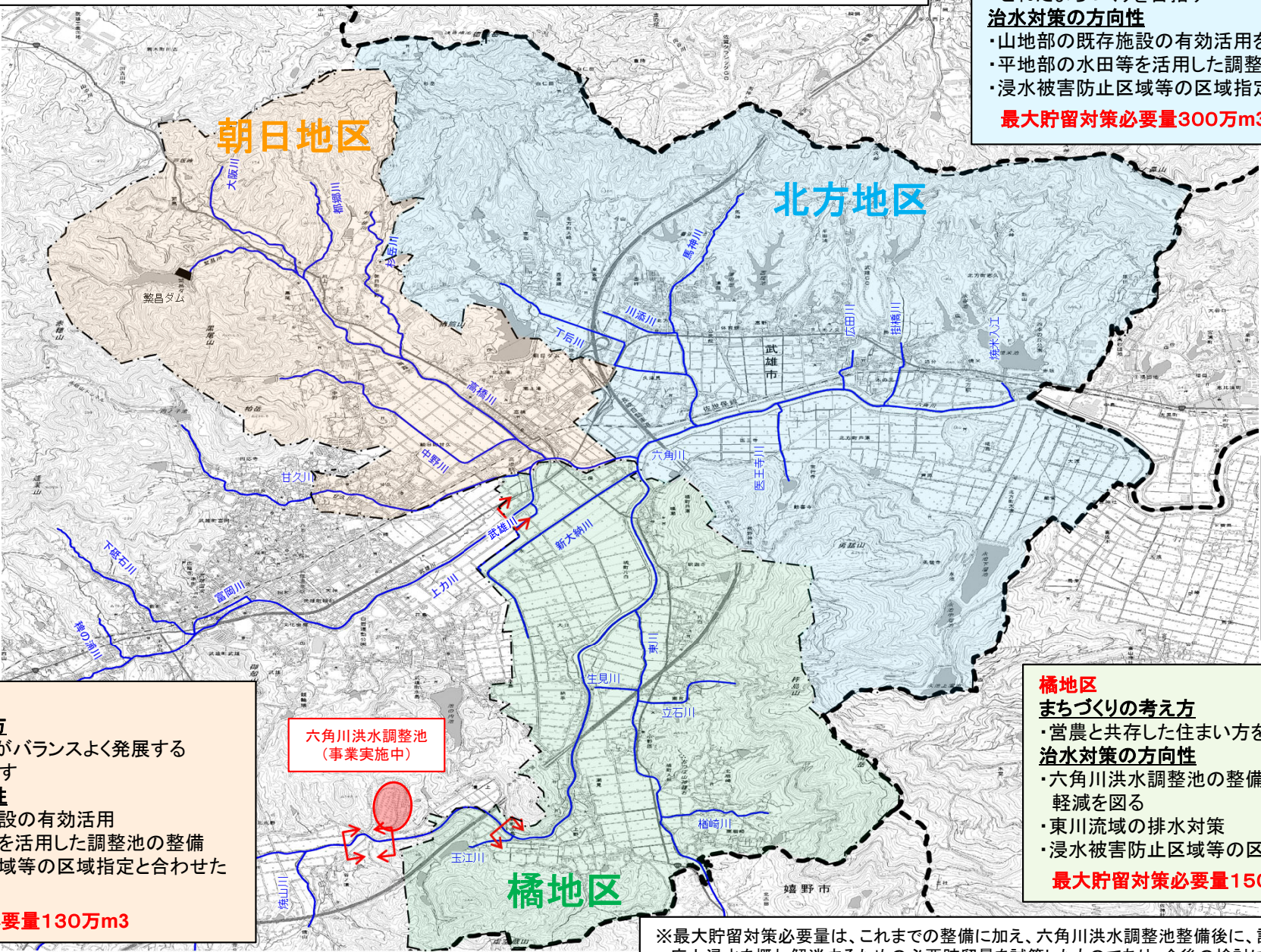
北方地区
まちづくりの考え方

- ・主要道路を中心とした交通網の整備と治水対策のバランスのとれたまちづくりを目指す

治水対策の方向性

- ・山地部の既存施設の有効活用を進める
- ・平地部の水田等を活用した調整池の整備
- ・浸水被害防止区域等の区域指定と合わせた居住対策

最大貯留対策必要量300万m3



凡例

: 河川

: 直轄管理区間

: 既設ダム

: 市町村界

: 重点整備地区境界

朝日地区
まちづくりの考え方

- ・居住地と商業地がバランスよく発展するまちづくりを目指す

治水対策の方向性

- ・山地部の既存施設の有効活用
- ・平地部の水田等を活用した調整池の整備
- ・浸水被害防止区域等の区域指定と合わせた居住対策

最大貯留対策必要量130万m3

橋地区
まちづくりの考え方

- ・営農と共存した住まい方を考えたまちづくりを目指す

治水対策の方向性

- ・六角川洪水調整池の整備により、床上浸水被害の軽減を図る
- ・東川流域の排水対策
- ・浸水被害防止区域等の区域指定と合わせた居住対策

最大貯留対策必要量150万m3

※最大貯留対策必要量は、これまでの整備に加え、六角川洪水調整池整備後に、計画対象降雨に対して床上浸水を概ね解消するための必要貯留量を試算したものであり、今後の検討により変わる場合がある